



**THE OCEANS L!ST**  
 - The Choice for Your Satisfaction -

002 NOV.  
 CHURCH'S



#### チャーチの靴

「オフくらはスニーカーでラクさせて」という気持ちもわかる。ただ、あえて休日に革靴を選ぶのも別の意味でラクなんだよね。それは「コーディネートがラクに決まる」という意味で。この秋らしい黒×茶のUチップをいつものデニムに合わせた姿を想像。うん、大人っぽい。張り出したコバのボリューム感もデニムにぴったりだ。英国の老舗チャーチといえば、穴飾りにスタッズを配した遊び心満点のウイングチップ。今でこそ定番商品化しているけど、登場したときは靴好きはもちろん世間をアッとさせたっけ。オンはもちろん休日にも強い老舗。そんな経緯を踏まえると、この靴が俄然輝いてくる。「革靴でラクをする」オッサンの手練手管。早速この週末にお試しを。7万円 / チャーチ 表参道店

最も活きがいい5大ブランドから厳選!

## 今季手に入れるべき、 紳士必携モデルはこれだ!

これらは英国靴好きなら当然すべて網羅しているはずのブランドだが、  
英国靴の魅力である定番性ゆえに、その新しい動向は意外と知られていないのでは?  
そこで、靴の専門誌「LAST」編集長の菅原幸裕氏に、今季われわれの足元を  
刷新してくれる究極のモデルを厳選していただき、その魅力を伺った。



「名品」ぞろいのブランドに  
新たに加わったマスターピース

### 「エドワード グリーン」の 『デューク』

かつて靴職人エドワード・グリーンも手がけた、ウィンザー公が愛用していたローファーから発想されたというモデル『デューク』。モカステッチと、やや短めのヴァンプ部のコンビネーションが、クラシックなカジュアル感を醸し出している。新ラストNo.137を使用。細部に目を凝らせば、センターシームのないトゥ部等、高品質な素材と高い職人性がもたらす仕様が見てとれる。さりげなく確かな存在感は、まさに英国靴そのものの。¥220,000 (エドワード グリーン 銀座店)

英国高級既製靴の雄が  
生み出す、新たな最高級

### 「チャーチ」の 『エリオット』

20世紀半ばから、英国を代表する高級既製靴としてその名が知られていた「チャーチ」。その長年にわたるノウハウをつぎ込んで生み出されたのが、直営店のみで展開される「クラウン・コレクション」(写真)。一足を製作するのに58日を費やし、アッパーの革質からスキンステッチなどのディテールまで、同社の製靴技術の粋が追求されている。クラシックなアーモンドトゥの新ラストを使用。各モデルには英国の作家たちの名が付けられている。¥240,000 (チャーチ 表参道店)

センターに  
縦じ目のない  
革使いにも注目!

一枚革に浮き上がる  
繊細なスキンステッチに  
一足に込められた贅が垣間みられる



*Il gioco delle coppie*

Da sinistra, francesina full brogue di Edward Green (1.100 euro circa, [edward-green.com](http://edward-green.com)); in pelle e suède di Sutor Mantellassi (595 euro, [sutomantellassi.com](http://sutomantellassi.com)), in pelle con fondo in cuoio di Church's (620 euro, [churchfootwear.com](http://churchfootwear.com)). Domino in avorio di Manufactum.